

大学院修士課程体験記⑰

卯野木 陽 子 (うのき ようこ) 大学院医学院 医学統計学教室 博士課程2年



私は現在、医学院博士課程（社会医学コース）に在籍し、医学統計学教室にて研究を行っています。体験記を通し、一人でも多くの方々に興味を持っていただけると嬉しいです。

【修士課程への進学】

回り道の多い人生です…私大文系大学で臨床心理学を専攻後、「真っ当な社会人になるのだ」と鼻息荒くメガバンクに入行し、丸の内での外国為替業務に配属されました。しかし、どうにも馴染めず9ヶ月で退職し（黒歴史）、看護大学に学士編入しました。実習で集中治療室での看護に興味を持ち、家族の転勤で引越しを重ねながら、集中治療室看護師として約8年勤めました。学術集会やセミナーで学んだ新たな知見を臨床で実践したり、自部署に Quality Indicator を導入して質改善に努めたりと充実した日々でした。その中で、データや研究が臨床現場を変える力を持つことを実感し、自身も研究する能力を獲得したいと思うに至りました。ただ、「いい歳なのに!？」という自虐ツッコミや入試への恐れから、進学に関してはかなり悩みました。家族や友人に背中を押され、勇気を出して入学説明会に参加し、現指導教員である医学統計学教室の横田勲先生に出会いました。やってみたい研究や興味のある分野、進学への不安などをざっくばらんにお話したところ、快諾そして激励いただき、奮起しました。合格通知を受けた時は心底ほっとしました。

【修士課程を振り返って】

あっという間の充実した2年間でした。非常勤看護師として仕事を継続しながら、公衆衛生を体系的に学ぶことができました。多様なバックグラウンドを持つ方々との自由闊達な議論や、高難度すぎてお手上げ状態から理解の糸口を見つけて歓喜するプロセスなど、アカデミアの世界は非常に刺激的でした。研究室でも、私が最年長に近いですが、年下でもみんなしっかりと自分の意見を持ち、非常に優秀で、向上心を煽られます。

入学した年は折しも新型コロナウイルスの感染爆発が起きたタイミングであり、所属教室と血液内科学教室との共同プロジェクトにも参加しました。私は主に、研究協力者との連絡調整や、札幌市のドライブスルーや羽田空港国際線ターミナルでの検体収集を担当しました。ここでの取り組みは、「唾液を用いた新たなPCR検査法」として専門誌に掲載され、社会医学が持つインパクトの大きさを実感しました。

そして、修士論文では、兼ねてより興味を持っていた大規模医療データベースを用いた臨床疫学研究に取り組みました。横田先生に相談し、日本の臨床疫学研究を牽

引する東京大学大学院の臨床疫学・経済学教室との共同研究が実現しました。プログラム技術はごく初心者、かつPCにも疎い状態で乗り込み、毎日朝から晩まで約2ヶ月滞在し、無事に解析を終えました。メンターとして手厚くご指導いただいた、東京大学の野大先生、笹渕裕介先生には、それこそエクセルの使い方からご教授いただき、感謝の念に堪えません。臨床疫学・経済学教室の方々とも、ランチしたり、親身に声を掛けていただいたりと非常に充実した日々を過ごし、研究者としての価値観を養う上で、大きな財産を得ることができました。横田先生にも、度々東京までご足労いただき、解析や論文の書き方や投稿方法まで全てをサポートして頂きました。様々な方々と出会い、研究生活に浸かった素敵な経験でした。

【現在、そして今後】

データベース研究やエビデンス構築の面白さに目覚め、研究を続けたいと思い、博士課程に進学しました。現在も、集中治療や看護についてリアルワールドデータを用いた研究をしています。大学院だけでなく、医療DXを実現する医療ベンチャーのリサーチチームにも参加したりと、活動の場を広げています。今後も、看護師として、医療の質向上やEBPM実現の一助となれるような研究を継続し、より良い医療、医療者への働きやすい職場環境を提供できるように取り組んでいきたいです!! …との熱い想いはあるものの、ロールモデル不在のため、粘り強く可能性を探っていく必要があります。

【入学検討中の皆様へ】

興味があるのならば、一步踏み出すことを切におすすめします。まずは、臆せずに研究室にコンタクトを取ってみてください。北大医学院は、新しい知識や関係性を得られる場所であり、きっと何物にも代え難い濃密な2年間を過ごすことができると思います。仲間が増えることを楽しみにしています。



指導教員の横田先生、メンターの大野先生、研究室メンバーと